

北九州モデル導入の**実際**を聞きました

先人たちの声

社会福祉法人福音会 特別養護老人ホーム

とばた

入所70名/短期入所10名
北九州市戸畑区千防1-1-6

7つの福祉事業からなる高齢者複合施設「ふれあいの里とばた」の一つとして2007年に開設。地域住民、ボランティアの方々、行政などの協力のもとに、様々な取組を行う新しい福祉文化の創造拠点。

「北九州モデル」実践施設として
メディアで紹介されました！



北九州モデル導入の主な取組内容

項目	コール	記録	入退所業務
問題・課題	離床センサーのコール対応に追われる	記録に時間がかかる	ショート利用者の荷物チェックに時間がかかる
取組	利用者の状態を再評価し、利用者の状態に合ったセンサーへの入替	メモ等に記入し、その後PC操作といった記録の仕方からタブレットを活用した都度入力へと変更	荷物チェック表を、職員がチェックしやすく、また本人家族が分かりやすい書式に変更
効果	コール対応回数が 30回/日から5回/日に減少	記録時間が 102分/日から81分/日に短縮	チェック作業の時間が短縮し、 職員の負担感が軽減した

1 北九州モデルに取り組もうと思ったきっかけは？

職員がゆとりを持って日々のケアを行えるよう、業務負担の軽減や介護テクノロジーの活用を進めていこうと考えていました。しかし、自分たちだけでは**何から着手したらよいか迷っていたところ**、北九州モデルの話があり、**第三者の視点を取り入れながら自施設を見直そう**と思い、取組に参加することにしました。

4 今回の取組で役に立ったことは？

他ユニットや部署の現状を知ることができ、**施設全体としてどうしていくのが良いかの方向性を皆で考えるきっかけ**になりました。また、自分たちだけでは気づくことができなかった**課題が明らか**となり、多職種で連携することで**多角的な視点を取り入れられ、解決への突破口を開く**ことができました。

2 職員との合意形成はどのように行いましたか？

リーダー会議の場で**取組の流れや目的を明示**し、理解を得ました。そして、**ユニットリーダーを中心に全職員へ周知を図り**、同意を得ました。また、各調査や実際の改善活動を進める上でも、**その都度「利用者に関わる時間を増やす・ケアの質を向上させる」という取組の目的を示す**ことで、職員一丸となって取り組むことができました。

5 新たな取組など、今後の方針は？

インカムを全館導入し、職員間の情報共有の円滑化を図っていく予定です。また、新たな**特殊浴槽や見守りセンサーの導入**、**ナースコールの入れ替え**、**記録ソフトの見直し**を行うことで、**職員の身体的・精神的な負担を軽減**し、**生まれたいゆとりを活用してケアの質的向上を進めていく**方針です。

3 取組にあたり壁になったことは？

新しいこと、特にタブレットなどこれまで活用していなかったデジタル機器を使用する際に、**苦手意識や抵抗感を示す職員**もいました。そこで、活用することの**メリットや目的を説明しながら**、**機器操作が得意な職員を中心にフォロー体制を構築**した結果、**苦手意識のあった職員も徐々に活用できるようになりました**。

6 これから取り組む施設へのアドバイスを！

自分たちにできるのだからと躊躇し、なかなか取組を始められないかもしれません。しかし、例え小さな変化であっても**効果は必ずあります**。また途中で行き詰まることもあるかもしれませんが、そんな時は**他の施設を見てみたり、外部の専門家を活用**することで少しづつ進んでいきます。まずは**思い切って最初の一步を踏み出して**いただければと思います。